

特集＝ 日本の歴史を変えた 若いエネルギー

ZOOM UP

1978 NO.23



中原 実

日本歯科大学理事長・学長

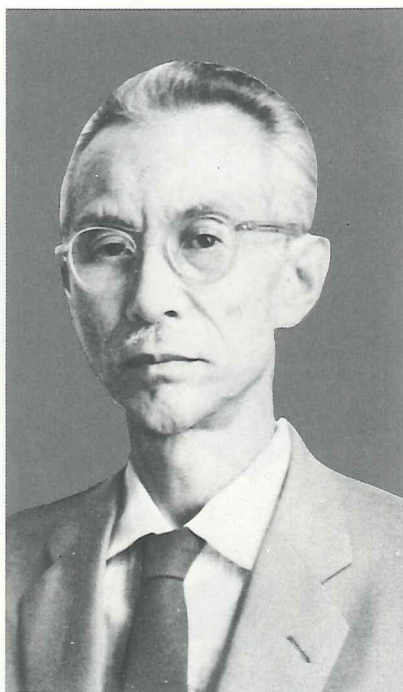
大学を卒業し、社会に出てゆく若者のために、大先輩であり、教育者である中原実先生のお話をうかがおうと、東京・飯田橋の、日本歯科大学・学長室をお訪ねした。

中原先生は、昭和16年に日本歯科専門学校（現日本歯科大学）の理事長となり、大学昇格後、23年からは学長を兼任しておいでになる。理事長として37年、学長として30年。わが国の歯科教育者としてはこれ以上ない実力者といえる。日本歯科大学は、明治40年の創立以来11,940人という多数の卒業生を生み、OBたちは北海道から沖縄、海外にまで進出して歯科医療にはげんでいるのだ。

中原先生については、日本歯科大学のほかにも、忘れてならないご経歴が2つある。

そのひとつは、日本歯科医師会長として、いちばん問題の多かった時期を、強烈な個性と政治力で切り抜けられたこと。昭和37年から43年までと、47年から51年までの前後2回、のべ10年におよぶ激務であった。ときには、憎まれ役にもなった。しかし、堂々と日本歯科医師会の主張を押し通された。一般国民のほとんどが、日本医師会の武見太郎会長と、歯科医師会の中原実会長のお名前を知り、歯科医療に対する関心を高めたのである。

もうひとつは、日本画壇の重鎮としての、中原実・画伯のことだ。わが国シュール・レアリズム絵画の草分けであり二科会の創立にも力をつくされた。昭和



37年には〈中原実画集〉が出されている。わが国の絵画史を語るとき、中原実の名を落とすことは絶対に出来ないご存在なのである。



中原学長は、今年の2月で満85歳というご高齢である。にもかかわらず、学長室をお訪ねしたときは、非常にご多忙のようだった。これだけの大学、これだけの大先生にしてはむしろ簡素なお机で、書類に目を通しておいでだったが、〈ZOOM UP〉のために、貴重な時間をさいてくださった。

私立歯科大学にからむ昨今の動き、その中における日本歯科大学の堅実な方針

などについて、しばらく話しておられたが、〈若い歯科医のために〉との質問に対しては、ただひとつ、「自信を持って」とおっしゃった。

「日本人は、世界で最高の智力と能力を持つ民族である。それを忘れてはならない」ともおっしゃる。

それは、若い頃から欧米でのご生活が長く、各国の医師や芸術家たちと広く交わった中原学長ならではの、実感であろう。また、私学の理事長・学長として30余年、官展に対する民間の芸術団体としての二科創立メンバーである中原先生の自信でもあろう。

「人間は、石コロではない。米粒でもない。1人1人が個性を持つ。教育も、医療も、個々の人間に合ったものを、1人ごとに考えてあげなければいけない。すべてを1つの型にはめこもうとしても、けっして出来るものではない」

この言葉には、教育者としての中原学長と、歯科医師の指導者である立場としての、共通の強い信念を感じた。そして、もちろん、中原画伯としても――。

〈略歴〉

- 1893年（明治26年）2月東京のお生まれ。
- 1915年 日本歯科医学専門学校卒、ハーバード大学留学
- 1918年 ハーバード大学歯科卒、第1次世界大戦にフランス軍歯科医で参戦
- 1923年 帰国、日本歯科医学専門学校教授
- 1931年 理事長
- 1948年 日本歯科大学学長
- 1962～68、72～76年 日本歯科医師会会長
- 1973年 日本私立大学協会会長、勲2等旭日重光章

診療室拜見

渡辺歯科医院

院長：渡辺 義 副院長：渡辺 嘉男

大阪府豊中市上野東3丁目18-1 エディ・タウン2F



豊中市は大阪のベッドタウンの一面を持ちながら発展してきたマチ。阪急豊中駅から車でおよそ5分、府道が交差する住宅街の角に立つ4階建てビルの2階が渡辺歯科医院だ。

渡辺義(ただし)院長(63歳)は、このマチで昭和12年に開業したというからすでに40年の古いキャリア。長男の嘉男さん(30歳)を副院長に1日32~3人の治療をしている。院長はこの医院には週3回、あとは京都にある救世診療所という忙しいからだである。

診療室はゆったりとしている。天井はグレー、床はベージュ、壁が白という配色。ブラインドを通して外からの光が室内の清潔感を盛り上げていた。治療いすは、オサダのジュニー(座位専用)3台と、コンビ1台。肩の高さほどの間仕切り兼用キャビネットは、ベージュと茶の格子模様。ポピュラーミュージックが静かに流れる部屋でお二人に質問を。

Q: とても感じのいい診療室ですね。

A(院長): 私の経験からドイツ式に性能を重視した、すっきりとしたものがあるので、シンプルで清潔という点に留意しました。おかげでとても働きやすい。

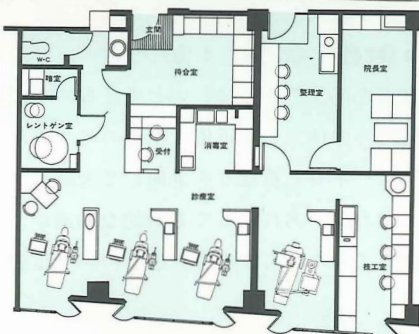
Q: スタッフはどういう構成ですか。

A(副院長): 私と父。妹が受付と助手、

弟が技工士見習い。ほかにパートの人たちをちょこちょここと。

Q: ご家族だけの診療の長所をます。

A(副院長): 細かいことを言わなくても意志が疎通することでしょうね。患者の側から見ても、それがわかって、いいと言ってくれる人もいます。それと家族なので、みんな自分の医院だという自覚に立っているからでしょう。従業員を採用する時は、自分も経営に参画しているん



だという意識の持てる人を見つけたいですね。

A(院長): 逆に(家族だけだと)わがまが出てもある。これが悪い面。だから秩序をはっきりするようにしていますよ。医院の運営には規律が一番大事です。

Q: こちらは朝9時半から夜8時までと随分診療時間が長いですね。

A(副院長): 最後の受付は7時半ですが、これは患者さんの強い要求を入れているのです。

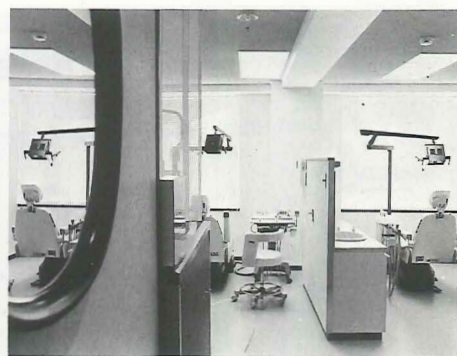
Q: 親子で診療をされているとお互い技術的な面で違いが出てくると思いますが…。

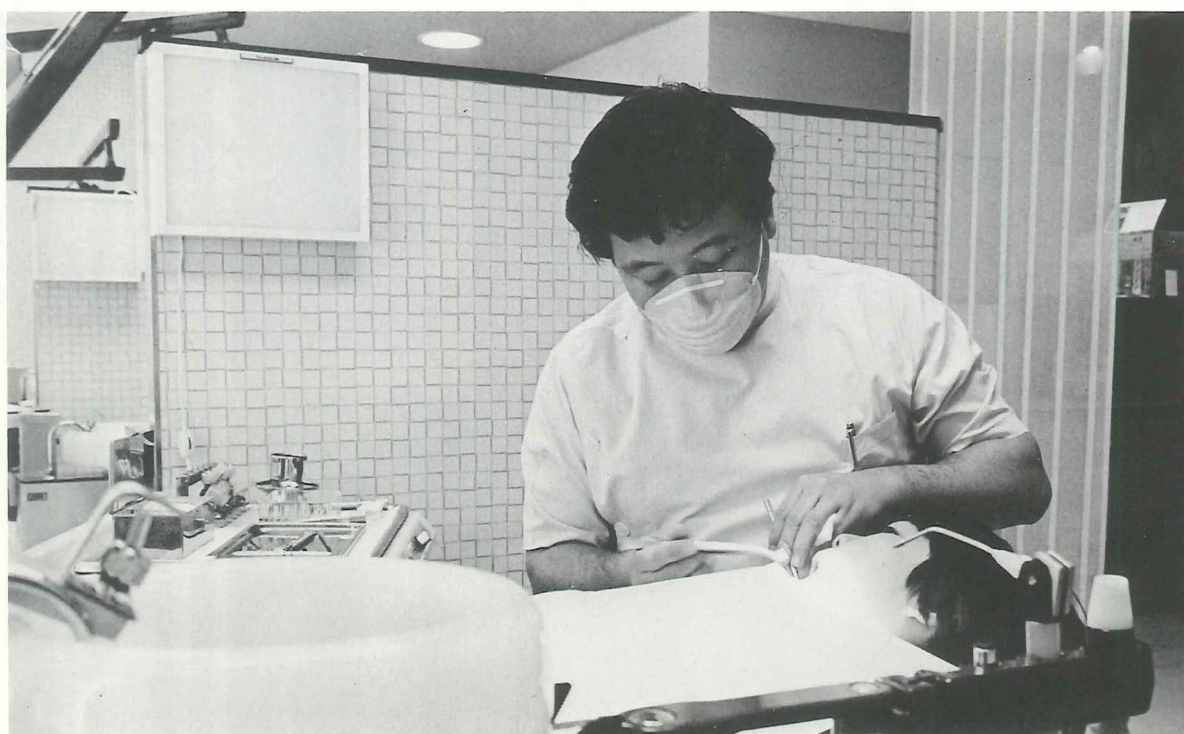
A(副院長): 父は新しい技術を取り入れることに熱心で、座位診療も早くから実践していますので、二人のギャップはあまりありません。

A(院長): 学会にも積極的に出るようにしています。開業したてのころは、何もなかったころで、全部私の創意工夫でやったものです。そのころ持っていた私の考えが今全部的中していますよ。

Q: お父さんから息子さんをどうご覧になりますか。工作中に細かいことなども何か。

A(院長): 数をこなすことが大事ですね。ほくは学校時代から他人の三倍こなして





来ました。たまたま大阪の電気局病院に勤め、そんな機会に恵まれましたし…。
 仕事に何か言ったりすることはありません。

Q：今後どんな構想をお持ちですか。

A(副院長)：もう少し安定したらスタッフを一人か二人ふやしたいと思っています。患者の教育をやりたいですね。これからの歯科医は、歯のホームドクターのような形でなければならないと考えています。

A(院長)：このマチは他と違って個人住宅が多く、社会的な移動が少ないのです。だから長くつき合うことになります。じっくりと腰を落着けた診療が大事です。

Q：患者との接し方でどんなお考えをお持ちでしょうか。

A(副院長)：このあたりの郊外へ行くと「みてやる」式の話も聞こえてくるが、私は「患者は王様」だと思って治療したいです。

A(院長)：私は患者も歯についての基礎知識を向上させてほしいと考えるのです。先ごろの伊豆大島近海大地震の時マグニチュード6と震度6を混同して大騒ぎになったが、あれだって基礎的な知識が不足していたからです。患者のレベルを

向上させ、相手を納得させることが医者
 の役目でもありますね。

A(副院長)：医師が患者に対していたずらに専門用語を使うこともよくありませんね。

Q：これから歯科医として巣立つ若い人たちへ先輩としてひとことどうぞ。

A(院長)：先日ある大学の教授とお話したのですが、近ごろは、新しい流行ばかり追いかけて基本がなおざりになっている。私は基本をしっかりつかめと言いたいですね。

A(副院長)：私は父をはじめいい先輩に恵まれました。その人たちのアドバイスを素直に受け止めたのが今役に立っています。それと、月並みですが「初心忘るべからず」ということですね。

〔診療室を拝見して〕

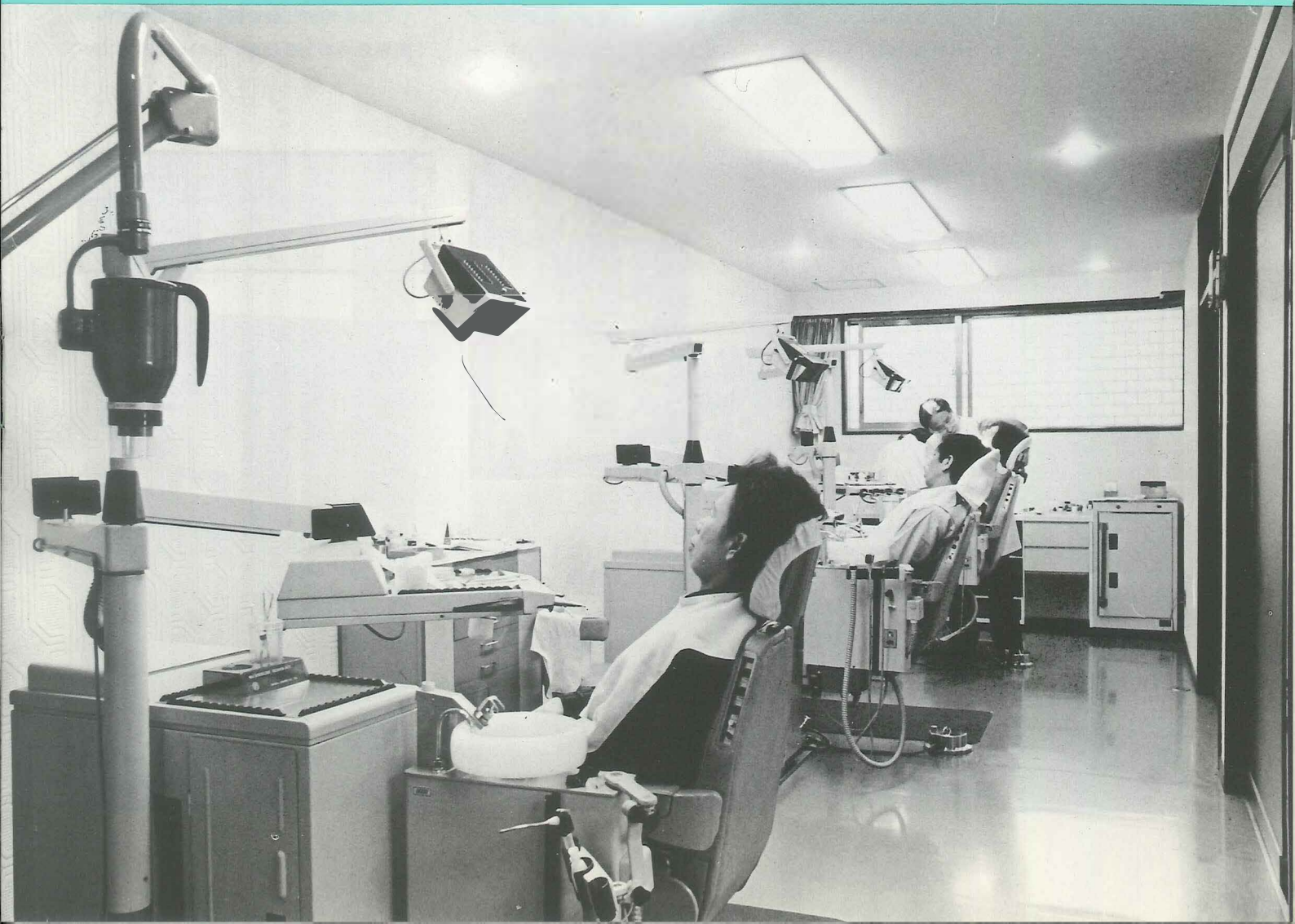
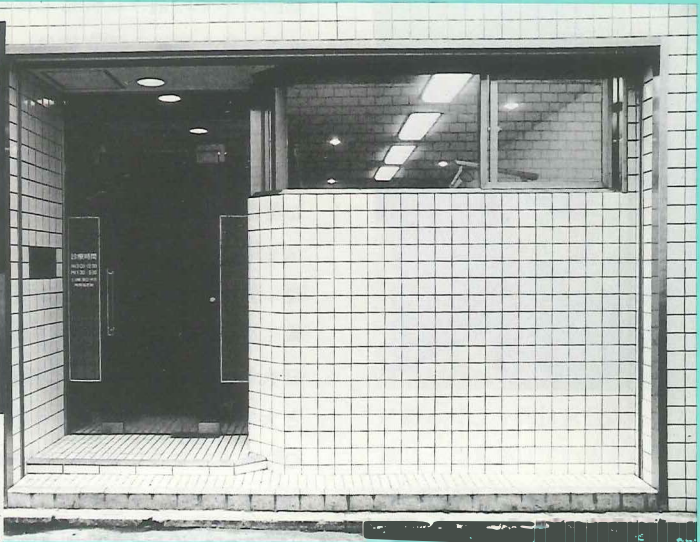
理論よりまず実践をという院長のお話は、ご自分の体験に支えられていて説得力があった。患者がくわえる咬合平板にタテの垂直板をつけて顔全体の歪みを計る器材や技工用スケールなどすべてご自分の考案だ。常に患者の立場を優先するよう心がけている副院長。老練と青年らしいまじめさががっちり結びついている好ましいケースだと感じられた。

診療室拝見

矢崎歯科医院

院長：矢崎 仁

横浜市中区吉田町 2-5





根岸線関内駅から、歌謡曲で全国に知られた伊勢佐木町の商店街アーケードをくぐってすぐの繁華街まで徒歩で2分。ミナト横浜の顔としてかつて大にぎわいを見せた界わいの一角に矢崎歯科がある。

表面外壁のグレーのタイルが真新しい感じで人目をひく。それもそのはず昨年5月改装したとのこと。建物は、間口が約6メートル、奥行き約18メートルと細長の平面。

ブルーのじゅうたんを敷きつめた待合室を通過して診療室に入ると、ここも床はブルーのビニル、壁はベージュ色。

細長いへやの通りに面したところに窓があるだけなので、採光には、ケイ光灯とスポットの光をいっぱい使っている。

矢崎仁(しのぶ)院長は、昭和6年のお生まれだというのが、お年の割りには重厚?な雰囲気を持ち主。でもお話を始めると気さくなお人柄がのぞいて一。

Q:先生はハマッ子でしょうか。

A:いいえ。私は長野県の諏訪なんです。日大を出てから二年間開業医に勤めたあと大学院に入り、37年6月の開業です。

Q:スタッフをご紹介ください。

A:医師は私一人。ほかに鶴見大学女子短期大学出の衛生士・小野淳子・井出宏子、日大歯学部附属技学校出の技工士・安達経弘の計4人。診療時間はいちおう朝9時から夜5時半まで、この間に12時半から1時間休憩がはさまります。

Q:患者は1日どのくらいですか。

A:1日25人くらいですが、医者1人としてはまあまあの数じゃないでしょうか。

Q:こちらは2階建てで、1階は診療室ですが、2階は何にお使いですか。

A:2階は更衣室とか食堂、休憩室などです。1階のスペースは約100平方メー

トル。建物はこれ以上広がらないので、内部だけの改装に終わりました。

Q:治療イスはオサダのユニオート3台ですが、立位専門でご使用になっているのはちょっと珍しいように思ったのですが…。

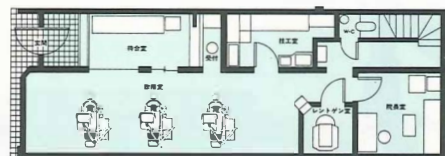
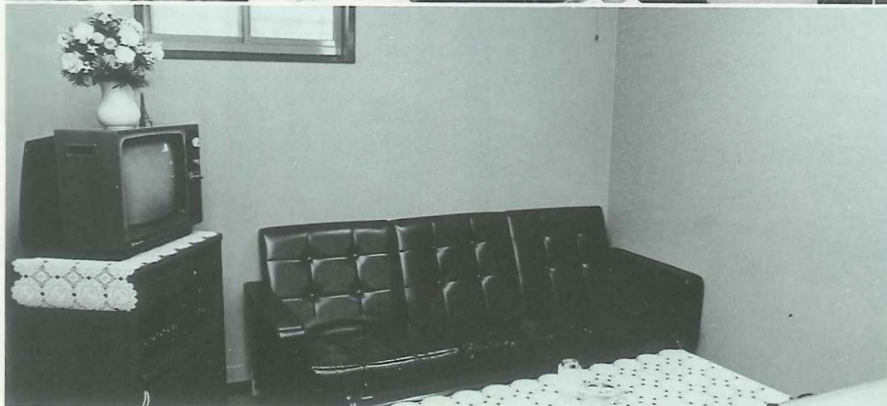
A:立位にしているのは大学時代の習慣なんですよ。それでも、このうち1台は時間にゆとりがある時に座位で使っているのです。座ってばかりいると足が萎えるような気がして……。それにしてもユニオートは、性能もデザインもいいですね。

Q:ほかのスタッフには日ごろどんなことを指導なさっていますか。

A:窓口が一番大事だと言っています。患者は痛みや不安を抱えてやってくるのだから誠意をもって接するように言いかせています。

Q:歯科医の現状と今後をどうご覧になっていらっしゃるでしょうか。

A:(うーんと、うなって)将来は厳しいと思いますね。最新の歯学をたえず研修しこれを地域社会に施し、公衆の歯科保健思想の向上普及を計るのが理想ですが…。



現実はずしもそうはいかない。今までにはよかったが…(?) 今後はこれ以上歯科医にとってよくなることはないでしょうね。

Q：先生のお子さんには、歯科医についてどうお話をされていますか。

A：うちの子はこんど高校ですが、私は、あと20年もたてば医療は国営になるだろうと話をしています。本人に歯科医師になる意志があるのなら開業医ではなく大学の先生がよいと云っていますが、家内は私の意見と違ひまして…。(笑)

Q：こちらは土・日がお休みですが、休日はどういう風にお過ごしで…。

A：休みになったら、うちにじっとしてはおりません。主に土曜日は買い物やゴルフや旅行にあて、日曜日ではできるだけ休むようにしています。こうすると疲れもとれます。週休二日の効用でしょうな。

Q：ミーティングはなさいますか。

A：ええ、2ヵ月に1回くらいの割りでやっています。

Q：これから歯科医としてスタートを切る若い人たちに何かアドバイスを。

A：今の若い人たちは、歯科医はいいも

のだという風に聞かされて大学へ入り、研究室でみっちり最新の技術を身につけていよいよ歯科医として歩き出すわけだが、今後は社会情勢も厳しくなるので相当の覚悟はしてほしいと思いますね。

歯科医というのは、特に私立においては勉強中も又開業時にもかなりの費用を払っているのに、いざ開業してみると思ったように、い一方は変ですがそれが回収できないという現実と直面するというわけなんです。

Q：そうなったらどうすべきだとお考えですか。

A：当面経済性を抜きにして社会に奉仕することになるのではないかという気がするわけです。その時こそ患者からの信頼を勝ち取るよう苦しくてもがまんして

診療に当たって医の倫理を守ってほしいですね。そのうちに保険医療制度が根本的に改正され採算医療で医の倫理が守れる時代がくると思いますが。

〔診療室を拝見して〕

矢崎先生はまことにザックバランな性格とお見受けした。言いたいことは包み隠さずにはっきりいうタイプ。それでいて少しも相手にいやな感じがないのは人徳というべきだろう。歯科医は今過渡期にあって、今後は歯科医にとって厳しい環境が待ち受けているというお話も説得力がある。先生のお話の中には「誠意」「信頼」という言葉が何度も繰り返された。その言葉は、歯科医の進むべき方向を示唆するキーワードであるように思われた。



アシスタント紹介

千葉県
歯科衛生専門学校

千葉市花輪町111

岩沢 正和学院長



2年生の教室をのぞくと「栄養学」の講義の真っ最中だった。色とりどりの服装が教室の中に華やいだ雰囲気漂わせていて、ひと足先に春到来…とも思われたが、生徒たちは真剣な表情で先生の話を聞いている。国家試験が目の前なのだ。

ここは千葉市の南はずれ、お隣の市原市に近く、深い緑に囲まれた静かな環境だ。16万平方メートルもある敷地の中に建つ4階建のひとむねに県立の4つの教育機関が含まれていて、その2階が千葉県歯科衛生専門学校、衛生士の養成機関。昭和45年、全国61番目の施設として開校された。先徒の定員は1・2年とも40人だが、現在は1年生38人、2年生39人が在籍している。卒業を間近に控えて今が一番大事な時期になっている2年生の何人かに話を聞いてみる。

まず。「この学校に入った動機を教えてください。父が歯科医なので…。おばが歯科医院の助手をしていたので、衛生士という職業に関心があったから……。高校卒業後まっすぐ入学した生徒たちには、早くから衛生士になりたいと思っていた娘さんが多い感じ。

クラスの中でやや年輩と見えた生徒二人はそろって歯科医院の受付の経験者だった。「専門的な勉強をした方が、たとえ受付をするにしてもいいことだと思っ…」。いや、ごもっともです。はじめはインタビューにしり込みしていたお嬢さんたち、なかなかはっきりと答えてくれて気持ちがいい。

で、次の質問。「2年間ここで勉強した感想は…。受付の経験がある娘さんの一人は「基本的なことはわかったが、学

校に入る前に考えていたよりも衛生士というものの仕事の難しさが認識できました。これから勉強しなければならないことがもっともあってと思います。」。

ほかの人たちもほぼ似たような感想。「衛生士の仕事の奥行きはきりが無いという気持ち」と答えた娘さんは、人間的関係も同じことと思う、とつけ加えた。

「入学してよかったのは、女性としての細かな心づかいが最も必要な職業だということに確信が持ったことでした。先生の治療がスムーズに運ぶよう心配りすることは、家庭の中に入っても役に立つのではないのでしょうか—これが平均的な感想、みんなが、楽しい学校生活だったと振り返っている様子だった。

さて、いよいよ最大の関心事に触れてみよう。「これから勤めに入るわけだけど、先生（開業医）の理想像を聞かせてください—」同うん、難しいと顔を見合わせてから、「治療に対して熱心な先生。この先生ならだれにでも紹介できると自信が持てること」「私は、性格が明るい先生であればと期待しています—」難しい質問だと言いながらもそれぞれの理想像が飛び出してきた。「治療の姿勢に一貫したものがある先生」「衛生士の指導がうまい先生」「公私のけじめがはっきりしている先生」……。

千差万別とっていいほどの「理想像」だが、「先生への注文」を聞いてみると、内容はかなり絞られてくる。要約するとこんなことになった。

「この二年間で学んだ専門的な知識・技術をいかさせてほしい。単なる治療補助だけではなく衛生士としての仕事をさせてほしい」

自分の考えをはっきり話す生徒たちを、現代っ子という言葉でくくるのはあながち間違いではないだろうが、それだけで

はなく、これから飛び込んでいく新しい仕事に対する覚悟が、はっきりした口調となって出てくるのではないだろうか。うじうじしていないその態度は頼もしい限りだ。

法規関係の講義を担当している岩沢正和学院長は「ここ数年は競争率も高くなっていい生徒が入ってくるようになりました」と気さくに話してください。52年度は3・5倍の競争率だった。前の年は2倍だったという。開校当時は東北地方からの応募者が目立ったが、最近は千葉県内が大部分だとか。「環境のせいでしょうか、うちの生徒はのんびりしているようです。ぎすぎすしたところがないのは比較的家庭が恵まれている子が多いせいかもしれませんね。」

学校外の実習は、千葉と市川にある東京歯科大の付属病院と千葉大の歯科、それに個人が七・八軒とそろっている。が、校内の実習に使う診療いす14セットは、わざと初歩的なものにしていてという岩沢学院長のお話。「ここで最新のものを使っていて、いざ就職した先が古い機械なのにはがっかりしたり、ばかにしたり、あわてたりでは困りますから」というのが理由。

開業医の先生たちにどんなことを希望しますか。岩沢学院長は「私は患者との応対が一番気にかかるので、ふだんから教え子には、患者を粗末にしないことを口やかましく指導しています。それから近ごろの若い人に多いのですが、器具の準備と跡始末をきちんとするように教えています。開業医の先生には、まず衛生士の使い方を十分に考えてほしいですね。生徒たちは正規の資格を持ったという意識をもって就職したということを理解してほしいのです。生徒たちもあれこれ評判を確かめて勤め先を決めるようになってますし…」と厳しい注文だった。



たとえ自分で使っていても、ダメなものにはダメだと
はつきりいます。機械に対しての熱意と真剣さも群を
抜いている。(スマイリーGM)

現在2台使用中です。

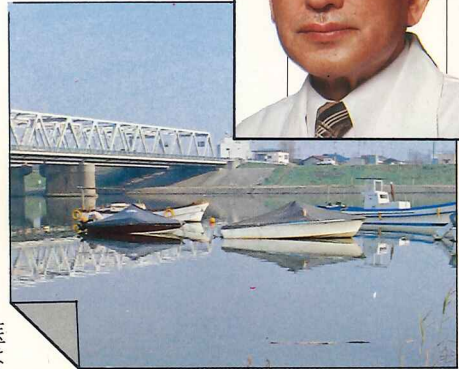
篠崎歯科医院

篠崎正義先生 東京都江戸川区南小岩7-9-7
日本歯科大学卒(72才)



私が戦後この地に開業したのは、戦跡もまだ癒えない昭和23年でした。以来、病氣一つせず元気にやってこれたのは、ストレスをなくし、自然の理に逆らわず周囲を含めて気持良く生活すること、その考え方を大切にしてきたからでしょうか。

今回、機械を選ぶことについても、今春日歯大を卒業する息子の方針、診療態型を充分考慮に入れ乍ら、立位専門で長年やって来た私も、もてる力を充分発揮できる機械をという事で、良く調べ、昨年開催された晴海のデンタルショーで



マイリーGMに決定しました。又、購入後、思わぬ利点は患者さんに非常に喜ばれる、ということでした。単に歯を治すことだけでなく、患者さんの喜びが、そのま、歯科医にはね返り、心の交流につながることは……この機械を買って良かったもう一つの利点だったと思いますね。患者を無理に仰臥させる——若い婦人の場合など多少抵抗がある様に思われますが、この機械は、自由に使いわられます。私は、たとえ自分が使っていても、ダメなものにはダメだ、とはつきりい、ます。オサダの良心的技術力に感心すると同時に、企業全体の機械に対しての熱意や真剣さも群を抜いています。私の話しがウソだ、と思うのなら、当院に来てご覧下さい、と自信を持っていえます。歯科

医は患者に、メーカーは歯科医に、互いの立場に立って考え、日々を大切に生きることが必要ですね。(スマイリーGM)のおかげでまだまだ長生き出来そうですよ。(笑)



スマイリー-GM

「オサダ」の自信作「ユニオートX」。

私も研究し購入しましたが、違和感もなく

全く不満はありません。

良い機械だ、と思いますよ。

東海林歯科医院

東海林義昭先生 東京都品川区小山3-5-8
日本歯科大学卒(35才)



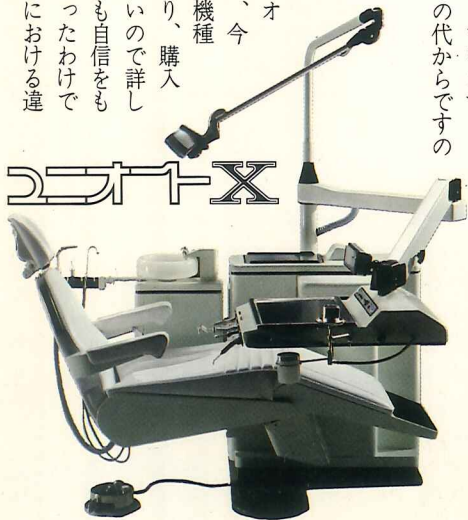
父が京城歯科大学を卒業後、この地に開院したのが昭和28年。私は8年前、2年間の勤務医を経験して父のもとに帰ってまいりましたが、最初はいろいろと戸惑いを感じました。世代の違いからくる治療方針は、まあ、歯科医学の考え方が30年代を境に大きく変わって来たのですから、仕方がないとは思いますが、困ったのは患者さんの問題。長年、父がフリータイム制で診療してききましたので、アポイント制に切りかえたら、患者さんから不満が出てきてね、しばらくは苦しい思いをしました。良い面は、私に用事が出来ても、気軽に頼めて、医院を閉じる必要がない、ということでしょうか。



兄妹5人の内、3人が歯科医になり、義兄も2人歯科医ですので、環境には恵まれておりますが：反面絞られますよ(笑)。スタッフは看護婦1人、助手3人、父と私の6名ですが、母が、子供を育て終った42才で衛生士の免状をとってくれましたので、事務関係一切をまかせてしまつて……。大いに助かっています。

オサダさんとのつき合いは、父の代からですのもう古いですよ。私は学生時代に使用したとは思いますが、何しろ学生ですので、余り機械名やメーカー名の記憶はありませんでした。最初「ユニオート」を使用しておりましたが、今回広告とデンタルショーで、新機種「ユニオートX」が出たことを知り、購入しました。まだ、使用日数が短かいので詳しくは云えませんが、オサダさんも自信をも

って売り出した製品ですし、私もよく調べて買ったわけですから……全然不満はありません。使用開始時における違和感が全くないのもい、ですね。



ユニオートX